

財政シミュレーションの概要と今後の展望（2021年3月時点）

1. 趣旨・位置づけについて

- ・本学の第3期中期目標期間中から第4期初頭にわたる中期的な財政見通しを展望し、各種方針策定等における基礎資料として作成するもの。
- ・2021年度予算を反映させるとともに、直近の政策動向等を勘案して時点更新したもの。

2. シミュレーションを踏まえた今後の展望

◆今後の展望

第4期前半には経常的なフローのマイナスに陥る見込み。それゆえに、収入・支出両面において相当の増収及び経費抑制が不可避という状況は変わらず。

（収入面）

- ・運営費交付金においては、今後も評価による配分への対応が肝要となる。
- ・公的研究費獲得による間接経費増は当然の前提とし、民間企業との共同研究による間接経費増や大学基金等の独自財源獲得の強化策は必須と見られる。

（支出面）

- ・増収の方策を講じたとしても、収入増よりも支出増（人件費の自然増、インフラの老朽化更新、電子ジャーナル・データベース所要額の逦増等）が上回る状態が続くことが予想されるため、増収と並行して支出面の抑制は不可避である。
- ・現在多くの国立大学が陥っている状況を本学が繰り返さないためにも、収支需給が逼迫する前の現段階から、最もシェアの高い人件費をはじめ、経費の抑制方策について検討を開始する必要がある。

◆今回のまとめ

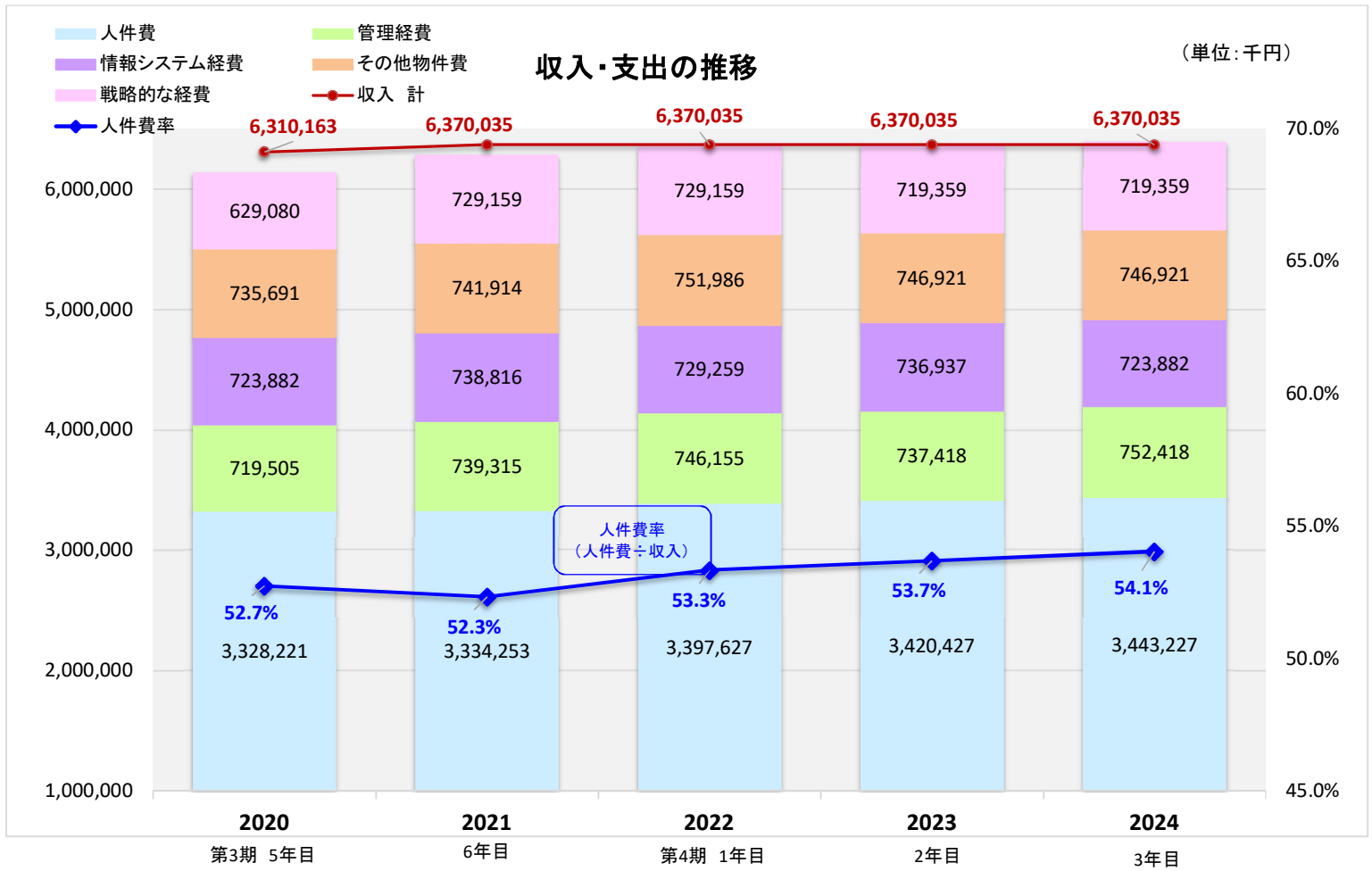
中期的に収入増よりも支出増が上回る傾向が示されており、複数の新たな増収方策を講じるとともに、複数の経費抑制の方策を講じることが必須という状況に変わりないことが、改めて明らかになった。

引き続き、収入と支出の状況を定期的にウォッチし、適時適切に各種の方策を発動させる判断を行っていく必要がある。

以上

第3期から第4期初頭にかけての財政シミュレーション

※経常的な収入・支出の推移であるので外部資金(直接経費)は含んでいない



収入区分	2020	2021	2022	2023	2024
運営費交付金	5,233,245	5,263,676	5,263,676	5,263,676	5,263,676
学納金	532,712	532,712	532,712	532,712	532,712
間接経費、その他自己収入	544,206	573,647	573,647	573,647	573,647
収入	6,310,163	6,370,035	6,370,035	6,370,035	6,370,035

支出区分	2020	2021	2022	2023	2024
人件費	3,328,221	3,334,253	3,397,627	3,420,427	3,443,227
管理経費	719,505	739,315	746,155	737,418	752,418
全学情報・図書館システム経費	723,882	738,816	729,259	736,937	723,882
その他物件費	735,691	741,914	751,986	746,921	746,921
戦略的な経費	629,080	729,159	729,159	719,359	719,359
支出	6,136,379	6,283,457	6,354,186	6,361,062	6,385,807

※2023年度から 単年度収支では逆転

	2020	2021	2022	2023	2024
収入－支出	173,784	86,578	15,849	8,973	△ 15,772

※特殊要因経費(退職手当、年俸制導入促進費、用地一括購入長期借入金債務償還経費(2020で償還終了))については、収支均衡のため、グラフに表示していない。

	2020	2021	2022	2023	2024
特殊要因経費	801,805	101,173	60,748	60,748	60,748